

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年3月6日

【評価実施概要】

事業所番号	0970800678		
法人名	社会福祉法人 くすの木会		
事業所名	グループホームいずみ		
所在地	栃木県小山市高橋128-1 (電話) 0285-39-1030		
評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	平成21年1月27日	評価確定日	平成21年3月6日

【情報提供票より】 (平成21年1月10日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年2月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9人
職員数	8人	常勤5人(うち兼務1人), 非常勤3人, 常勤換算6.1人	

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 1階建ての1階部分		
------	-------------------	--	--

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	16,000円	その他の経費(月額)	・光熱費—25,000円 ・理美容代, おむつ代—実費	
敷金	無			
保証金の有無(入居一時金含む)	有(100,000円)	有りの場合償却の有無	有(退所時)	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	月額	36,000円		

(4) 利用者の概要(平成21年1月10日現在)

利用者人数	9名	男性	2名	女性	7名	
要介護1		名	要介護2	4名		
要介護3		5名	要介護4	名		
要介護5		名	要支援2	名		
年齢	平均	82歳	最低	71歳	最高	91歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	関医院、小山市民病院、海星歯科クリニック
---------	----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当事業所を含めた法人全体でISOの認証を取得している。毎年家族に満足度調査を実施したり、職員の育成にも役立てるなど、計画・実施・検証・改善の流れができています。一方では、入居者の馴染みの場所への電車旅行など柔軟な対応が実践されている。お茶受けには季節の花が添えられたり、入居者が亡くなった時にはホームでの生活の写真をふんだんに飾って祭壇をつくるなど、細やかな心づかいがあり、入居者への思いを形として表している。運営推進会議は、家族も交えた食事会と合わせて実施することもあるなど開催方法にも工夫されている。過去に水害対策として避難をした経験もあり、今年度は屋外で実際に炊き出し訓練を行うなど防災への意識も高い。笑顔を大切にしたいホームである。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 外部評価の結果は、事業実績・計画と合わせて運営推進会議に報告して意見をもらっている。職員にも配布・説明している。また、ISOの品質管理の一環で、家族の満足度も含めて、毎年度評価を行い、課題を分析して改善に努めている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 今回の自己評価は、職員に相談しながら管理者がまとめ、職員にフィードバックして完成させた。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議開催2年目に民生委員等の地域の方に加わってもらえるようになったことで、地域の方が分かるようになってきたと考えている。会議では写真も交えた報告書で活動を報告し、意見をもらい、それを活かしている。家族も参加する食事会と運営推進会議を合わせて開催するなど、開催の仕方も工夫している。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族が訪れた際に入居者の状況を報告したり、入居者の様子の写真を取り入れた法人の広報誌やホームだよりでの報告をしている。写真も数多くとっており、家族に表情の変化を見てもらったりしている。預かり金は出納帳で管理して家族に確認してもらっている。年4回の家族との食事会があり、職員の交替があったときには食事会の際や家族が訪れた際に紹介している。ISOの品質管理の一環として家族アンケートを実施しており、その結果を公表して、運営に活かす取り組みをしている。年4回、家族を交えた食事会を開催しており、その際には運営推進会議のメンバーにも加わってもらえる工夫もされている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 神社のお祭り、運動会などの地域行事に出掛けている。近くの保育所の子どもたちとの年間を通じた交流もある。散歩や買い物の際に話をしたり、花や野菜をいただいたり、差し上げたりといった近所づきあいもある。法人全体としても地域交流スペースを使っている「きぬカフェ」等、地域の方に寄ってもらえるような環境づくりをしている。

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の基本理念のほか、グループホーム独自の介護理念として「入所者も職員も笑顔のある生活」「パーソンセンタードケアの実践」を掲げている。当ホームも含めた法人全体としてISO認証を取得しており、理念・方針・行動指針が一貫性を持ったものになっている。	○	法人全体としてもホームとしても地域との関係を深めることを大切にしている様子がうかがえる。地域との関わりについても職員間で目指す方向性を共有し、「介護理念」を「ホーム理念」に発展させていくことにも期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝法人全体の申し送りがあり、そこで理念の唱和をしている。ホームの介護理念を玄関に掲出している。職員が使用するトイレには「明るく接し 優しく接し 自分を見つめる」と書かれたものが置いてあり、常に自分たちの大切にすることを振り返ることができるように工夫されている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	神社のお祭り、運動会などの地域行事に出掛けている。近くの保育所の子どもたちとの年間を通じた交流もある。散歩や買い物の際に話をしたり、花や野菜をいただいたり、差し上げたりといった近所づきあいもある。法人全体としても地域交流スペースを使っての「きぬカフェ」等、地域の方に寄ってもらえるような環境づくりをしている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の結果は、事業実績・計画と合わせて運営推進会議に報告して意見をもらっている。職員にも配布・説明している。また、ISOの品質管理の一環で、家族の満足度も含めて、毎年度評価を行い、課題を分析して改善に努めている。今回の自己評価は、職員に相談しながら管理者がまとめ、職員にフィードバックして完成させた。		

グループホームいずみ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議開催2年目に民生委員等の地域の方に加わってもらうようになったことで、地域のこと分かるようになってきたと考えている。会議では写真も交えた報告書で活動を報告し、意見をもらい、それを活かしている。家族も参加する食事会と運営推進会議を合せて開催するなど、開催の仕方も工夫している。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	疑問点について相談したり、情報・意見をもらうなどしており、運営推進会議にも何回か市の職員の出席があった。ホームとしては、運営推進会議への継続的参加も含め、市との連携を更に深めたいと考えている。	○	管理者は認知症実践研修の企画に加わったり、認知症対策推進会議に参画したりもしている。市との連携を深めたいという考えもあることから、入居者及び地域の方々が住みやすいまちづくりという観点でも今後も市との連携を深めるための働きかけをしていくことに期待したい。
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族が訪れた際に報告したり、入居者の様子の写真を取り入れた法人の広報誌やホームだよりでの報告をしている。写真も数多くとっており、家族に表情の変化を見てもらったりしている。預かり金は出納帳で管理して家族に確認してもらっている。年4回の家族との食事会があり、職員の交替があったときには食事会の際や家族が訪れた際に紹介している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ISOの品質管理の一環として家族アンケートを実施しており、その結果を公表して、運営に活かす取り組みをしている。年4回、家族を交えた食事会を開催しており、その際には運営推進会議のメンバーにも加わってもらう工夫もされている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	離職・異動はほとんどないが、職員が替わったときには自然にホームの生活に入っていくようにして入居者に影響が出ないように努めている。職員個々の自己目標の設定や力量評価など、職員が向上心を持って働けるような環境もつくられている。		

グループホームいずみ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年4回の法人全体研修のほか、年3回程度ホームでの勉強会を実施している。また、職員個々に自己目標を設定したり、力量調査を毎月実施したりして職員個々に必要なスキルを身につけられるような取り組みをしている。認知症介護実践研修などの外部研修には順番で参加している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県グループホーム協会、県老人福祉施設協議会など事業者団体に加入している。また、管理者が認知症介護指導者であることもあって、実習生の受け入れや見学を多く受け入れており、意見交換等もしている。入居者と職員と一緒に他事業所を見学に出かけることもある。		
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気にならぬよう徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	申込即入居となることがほとんどであるが、入居間もない時期には職員が関わりを多く持ち、その場の雰囲気になれてもらえるよう配慮している。また、他の入居者との関係づくりにも配慮している。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらかた喜び哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	掃除、洗濯物たたみ、料理の下ごしらえ等の家事や野菜づくりなど、入居者とともにやっている。また、様々な場所に出かける機会をつくって、入居者の昔話を聞くなど、共に暮らす生活者としての関係づくりに努めている。		

グループホームいずみ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望・思いを把握するよう努め、難しい場合には家族の力を借りたり、職員の気づきを踏まえて本人本位に検討している。センター方式のアセスメントシートは2年ぐらい前から取り入れているが、それ以前にも24時間の流れを見るシートを自作して本人の生活の流れを見るよう努めてきた。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家族の希望を踏まえ、生活の視点を大切にしながらサービス担当者会議などで職員の意見も反映しながら本人本位の介護計画の作成に努めている。	○	当ホームの介護理念のより高い次元での実践という意味でも、今後更に本人を良く知る関係者や社会資源等も取り込んだ介護計画の充実を図っていくことにも期待したい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	認定期間ごとの介護計画の見直しのほか、入居者の状態に変更が生じた場合などは随時見直しをしている。モニタリングを毎月実施している。支援の方法を変える場合などにはミーティングや申し送りノートで職員間の共有を図っている。また、前日勤務していた職員が少なくとも1人は勤務するといったローテーションの組み方に配慮している。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	時には家族の協力を得ながら入居者の行きたいところに出かけたり、思い立って買い物に出かけたりと柔軟な支援を心がけている。法人の特別養護老人ホーム等と敷地続きになっており、独立した運営を行いながら、「きぬカフェ」など法人事業所間の連携も図っている。		

グループホームいずみ


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援  本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	法人の嘱託医がかかりつけの方が多いが、従前のかかりつけ医を継続している方もいる。受診は基本的に家族が付き添うこととなっているが、必要に応じて職員が同行することもある。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有  重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ターミナルケアの指針及びマニュアルが作成されている。家族、医師、職員等と話し合いをしながら、ホームとしてこれまで5人の方を見送っている。ホームで本人の写真をたくさん飾って祭壇を設けたり、家族に思い出のアルバムを差し上げるなど、職員は亡くなられた後も本人との関係を大切にしている様子がうかがえた。	○	ホームとして今後更にターミナルケアの研修を行っていくことも考えている。これまでの経験や思いを活かしながら、最後まで本人らしく生きていくための支援を今後も追求していくことに期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	職員の離職や異動が少ない一方、馴染みが馴れないにならないよという意識をもっている。入居者個々に分かりやすい言葉づかい、本人が嫌な話題を出さないなど入居者の誇りに配慮した支援に努めている。個人記録は事務所で管理している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事などの一日の流れはあるが、日課は特になく、一人ひとりのペースにあわせた支援に努めている。訪問日にも昼食後に横になる方やチラシを見る方など、入居者が思い思いに過ごしていた。		

グループホームいずみ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	栄養士による献立は作成されているが、入居者の希望を聞きながら変更することもある。季節感を感じられるような盛り付けがされており、目からも食を楽しめるようになっていた。下ごしらえや後片付けなどは一緒に行っている。職員も一緒に同じ物を食していた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	15:00～18:00ぐらいの時間帯で、週に3回は入浴してもらえよう支援しており、希望があれば毎日入浴できるようにしている。現在ははないが、夜間の入浴を支援していた方もいる。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	外部で実施する講座やボランティアの力なども取り入れて、手芸、あみもの、絵手紙、フラワーアレンジメントなど楽しみ・気晴らしの支援をしている。外出の機会も多くつくっている。調理の下ごしらえ、掃除、洗濯物干し、野菜づくりなども一緒に行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良いときには毎日散歩に出かけている。また、2日に1回は食材の買い物に出かけている。行事的な外出も取り入れており、また個々の馴染みの場所に一緒に出かけるといったことも行っている。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関等に鍵を掛けていない。訪問日にも職員が入居者の様子をさり気なく見守っている姿が見られた。		

グループホームいずみ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	夜間の想定も含めて、毎月避難訓練を実施している。3日分の食糧を備蓄しており、毎月チェックしている。今年度は避難訓練の一環として、屋外で実際に炊き出しの訓練もしている。消防署の協力を得て救命救急の講習も受けている。		
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士の資格を持つ職員が献立をたてており、おやつも手作りのものが提供されている。入居者の食べられない物があるときには替わりのものを用意している。必要に応じて記録をしながら、水分量・食事量とも適切に摂取できるよう支援している。体重測定を実施している。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物内部は洋風のつくりになっており、調度品などは家庭的なものが用いられている。ソファやイスなどが複数個所に置いてあり、入居者が思い思いの場所で過ごせるよう配慮されている。音や光なども適切に配慮されており、室内に気になる臭いや空気のよどみ等もなかった。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ソファやタンス、イスなどが持ち込まれており、それぞれに表情のある居室づくりがなされていた。また、壁には職員がつくったボードがあり、写真等を自由に貼ることができるように工夫されている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。